

「ロッキーの9日面談」

ロッキーがケアをスタートしてから9日が経ち、いさどんと面談する機会を持ちました。

いさどん：
調子はどう？

ロッキー：
調子はまあまあいいですけど、まだ生活リズムがしっかりしていないのがありますし、夜中になると結構色々なことを考えてしまう自分がいます。

いさどん：
どういうことを考えるの？

ロッキー：
「勉強しなくて大丈夫かな？」とか、「勉強が出来なくて自分が馬鹿にしていたやつに、このままじゃ負けちゃうから負け犬かな」という思いがよぎったりします。そういうところが自分が苦しむ原因になっていますね。

いさどん：
「勉強しなくて大丈夫かな」といったって、大丈夫かどうか、答えはこれから出ることだし、「友達に負けちゃう」という話も人生はまだまだ長いからここで結論は出ないことだよ。例えば片方が大学に行って、片方が大学に行かなかったとしても、それが将来どうなるのかというのは、大学に行ったほうが絶対に良い人生を生きられるとは限らない。結論を出すのは10代、20代では早いかもしれないね。

ケア滞在の初めの1週間は、皆自由に過ごしてもらっているから声かけをしてこなかったけれど、じゃあ1週間経ったから「ああしなさい、こうしなさい」と言うのかといたら、そういうことは言いません。ただ、そろそろ自分で課題を見つけてそれに挑戦していく。それはこちらから提示するものではないんだよね。

多分、今はやれている部分とやれていない部分との両方があると思う。だから、顔を観ても晴れているわけではないよね。そこのところを自分でしっかりと分析し、予定を立てて下さい。

例えば一日のスケジュールの立て方でも、せっかくこういうところに来ているのだから、自然に触れたり農作業に出るというのも良い経験かもしれないし、だからとって受験生でもあるのだから、勉強もその中に組み入れていくようなメニューを考えていくといいよね。出

来ないメニューを考えてもつまらないから、実現可能なほどほどのものを考えたらいいと思うけれど、どう？

ロッキー：

そうですね。農作業には出始めてはいるんですけど、自分でしっかりと明確なプランを考えてはいませんでした。午後になって、「調子がいいから出られそうかな」という感じで、何となく出ているという状況です

いさどん：

とにかく、スケジュールは立てるけれども、実際はやらない人が多くて、実は僕もそういう子ども時代を過ごしてきた（笑）。僕もやってみて思ったのだけれど、心には不健康だよ。ね。「またやれなかった、またやれなかった」と言って、頭の中ではしっかりと予定は立てているのに、すごく不健康な時間を過ごした思い出がある。僕がもう一度子ども時代を過ごすことが出来るのであれば、ぜひやり通してみたいと思うのだけれど、そんなことは出来ないから、ロッキーにはぜひやってもらいたいと思う。

それから、まだこの話をするには早いなと思いつつも、伝えたい気持ちがあるから話すけれど、前回の面談でロッキーのことを非常に買っているという話をしたよね。今まで自分の中で見つけることが出来なかった部分を発掘してもらって、ご両親がびっくりするくらいに自分らしく生き生きと暮らせるようになってほしい、と思っています。

今、同室のいさおちゃんがつけているケア記録を読んでも、そういう傾向が既に出ているということはいさおちゃんは捉えている。ただ、本人はそれがどういうことなのかまだわからないだろうし、ご両親はもっと疑心暗鬼で（笑）、「そんなことはあるはずない」と思っているのでしょう。ぜひ親に対しても自分自身に対しても、びっくりするような自分を表現してもらえればいいと思います。

「人の後ろ姿はよく観える」と言って、ご両親のように「子どものことを自分事」と考える人はそういうことが見えにくいものなんだよね。人の本質を捉えることを日々学んでいるものにとっては、あなたの中に特別なものがあるということは感じられるものです。それが掴めてきた時に、「これか」といつか気づく時が来るから。

どんなにバランスの良い心を持っていたとしても、それが汚れていたり、ねじれて歪んでいると、それは素直にねじれた方に行ってしまうことにもなる。そのあたりは、ストレートにものを捉えていくことが大切だよ。そういう部分が足りなかったから、友達のことでも、受験のことでも、前向きに捉えることが出来なかったということだから。

ロッキー：

そうですね。今までは悪いことは悪いこととして捉え、自分を責めてばかりいたんですけど、いさどんは「そういう自分を変えることが出来る」と言って下さったので、変えられるのであればぜひ変えていきたいと思っています。

いさどん：

それは、観察力を身につけて、ものの捉え方を変えるということ。一つの出来事には無限の捉え方がある。自分の能力で可能な限り捉えていき、その時ストレートで素直で自然な捉え方をするのが一番良い。今の人間たちは人工的に生きていて、損得や駆け引きで捉えるから、問題が起きるようになっている。そのあたりは、こちらが細かく説明することではなく、自分で気づいていくことだからね。

ロッキーの方から何か質問はありますか？ 大人会議も真面目に出席しているし、何か意見や感想、疑問があれば出して下さい。

ロッキー：

昨日の大人会議で、よしどんが皆さんから意見をもらっている時に、僕は「皆さんがよしどんを責めている気がします」と発表したんですけど、なぜよしどんのことばかりに皆さんがフォーカスするのかと気になっていました。

いさどん：

それは昨日の大人会議の中でもロッキーに、「自分と人をダブらせない方がいいよ」と伝えたのだけれど、そういうふうにつける人は、過去にそういう立場に立った経験がある人なんだよね。

ロッキー：

そうですね。よしどんと自分がかぶる時があったので、「助けたい」という気持ちがありました。よしどんを観ていると、何だかはがゆい気持ちになって。。。いさどんに言われてみると、自分もそういう経験をしたことがあったので、よしどんと自分をダブらせていたと思います。

いさどん：

助けるやり方には色々あってね。今、目の前に溺れている人がいるとして、その人の命が危うい状況であるならば、出来れば飛びこんでいってでも助けたいよね。でも、ある程度余裕があるのであれば、そんな危険を冒すのではなく、まわりを見て、何か棒きれでも紐でもないか、浮き輪があればなお良いのだろう、といったことを判断し、助ける側にとっては危険のない助け方をしたいよね。さらに、もう少し余裕があるのであれば、よく観察してみると、「あなたは溺れていると思っているだろうけれど、立ってごらん。足がつくよ」という場所で溺れている人もいるかもしれない。

ロッキー：
そういうことか。。

いさどん：
そういう時には、「あわてるな。立ってごらんよ」と知恵を貸してあげる。そして、もっと浅い時には「何をしているの？『死ぬ、死ぬ』と言ってあばれているけれど、それでは死ねないよ」と見ていてあげる必要がある場合もあるのだから、相手の状況を捉えることが大切だよ。

ロッキー：
その部分で、先走って考えてしまったところはあると思います。

いさどん：
ロッキーは先走ったのではなく、良い意見を出したのだと思っている。つまり、ケアで来ている18歳のロッキーが、35歳で結婚もして会社を運営していたこともあったよしどんに、「あなたの捉え方は不自然じゃないですか」と言うのは、彼には大きな刺激になっていいと思う。それを中には、「なんだ、若者のくせに」と言う人はいるかもしれないけれど、それはその人の心が歪んでいると思う。若かろうが、年を取っていようと、大切なことは大切であって、良い意見だったと思う。

とにかく人は、つい自分とダブらせてしまうものだけれど、そこは今後気をつけていけばいいと思う。

ロッキー：
自分とダブらせると自分も苦しくなって、よしどんのことを本当に自分事のように感じてしまったというのがあるとは思うんですよね。

いさどん：
そういうふうに自分とダブらせてしまうと、辛い気持ちにもなる。それだったならば、冷静に観て、自分の経験を相手のために使う、という余裕が欲しいよね。冷静な時には、相手のためにエネルギーが使える。それが人のためになる。自分にダブらせて相手を救おうと思っても、結局そのエネルギーは自分のためにだけ使っているから、結果的にそれはあまり良いエネルギーの使い方にはならないんだよね。

ロッキー：
自分も疲れてしまいますよね。

いさどん：

そうそう。自分も疲れてしまうし、相手のためにならない。「自分が」と思っているうちはわがままだったり独りよがりだったり、人のためにはならない。人のことを想って人のためになってこそ初めて、徳積みとなる。そういったことをここで今話していること自体が、世の中に色々な18歳はいるけれど、こういう人はなかなかいないだろうと思う。貴重なことだよ。あなたがたまたま受験に失敗して、病気になったということも含めて、これは素晴らしいことだよ。挫折したからこそ、これがあるわけだから。

ロッキー：

それがなければ、ここと出会うこともなかったわけですから、その面ではすごくプラスに捉えられていると思います。

いさどん：

そういうふうにプラスに捉えるということが大切なのではなく、物事には色々な捉え方があるから、一つの視点だけで結論を出してはいけないということだよ。特に自分に負荷をかけるような考え方だったら、別の捉え方を持って自分を解放してやればいい。

ロッキー：

いさどんに聞きたいことがあるんですけど、出来事に対して自分の気持ちを出すということと、そのことに対して気持ちを出さずに自分の中で収めるということは、どちらがいいんですか？どちらも、自分が原因で問題事が起きている、と思っているんですけど。

いさどん：

そういうことは一つに決めない。決めていくと合っていればいいけれど、外れた時に見当違いな方に行ってしまう。だから、「現場合わせ」という言葉がここでよく使われるように、その時その時の状況に合わせて判断することが大切だよ。一見、問題のように観えることも、「こういう気づきがあったよね」と捉えれば、賢明な判断につながってくる。

しかし、どれもがポジティブに捉えられるばかりではないからね。「これはちょっと問題だよ」という場合もあって、そのあたりはその場その場の出来事として常にオリジナルに捉えていくことが大切だよ。つまり、出来事は多様で同じパターンはないのだから、その一つ一つに対処出来るだけの能力を身につけていくことだと思う。

ここで日々生活していく中で、新鮮な事に出会えばそこから学んでいけるし、ロッキーはこれから進学したり社会に出たり、また親との関係の中で、柔軟で現場に適した判断が出来るようにトレーニングをしていけばいいよね。

もう一つ、ケアをスタートしてから1週間とちょっと、あなたを観ていると思うのは、元々あ

あなたは病気じゃなかった。ただ、そういう傾向があったものだから、実際にお医者さんにも通っていた。今は病気という状態は全くないよね。自分でもそういう意識はあるのだと思う。じゃあ、あとは何をやる必要があるのかといたら、自分自身の心の捉え方と、人の心の捉え方。方法は今話したように現場合わせで、決めつけるのではなく、常に柔軟にやっていくということです。それをここに滞在している間に身につけたら、「怪物若者」みたいな「若年寄り」みたいな人になるよね（笑）。

ロッキー：

それは僕も思っていて、それは怪物ということも思っているわけではなくて（笑）、自分の考えに柔軟性がなかったなとすごく思うんですよ。すぐ他人に聞いて、その時は解決したつもりでも、いざ自分が同じ問題に直面すると逃げてしまう自分がいました。そういうところはなくしたいなと思っています。問題に対する正解はないと思うんですけれど、それに対してその場で一番適したことを選べるようになりたいです。僕はすぐに他人の眼を気にして、自分を犠牲にしてもその場を取り繕うために頑張るようなところがあります。それで自分もすごく苦労してきたのです。

いさどん：

はっはっは。18歳で苦労してきたか（笑）。

ロッキー：

そんな大した苦労ではないんですけれど（笑）。

いさどん：

でも、今話しているようなことは、40歳になっても50歳になっても、下手すると80歳になってそろそろ旅立ちそうな人でも出来ていない人は出来ていない。これは天性のものだから、大いにそこを开花させて、自分のためにも他人のためにも活かしてもらいたいよね。

ロッキー：

そうですね。自分とダブらせて苦労することが本当に色々あったので、そこを直していきたいですね。

いさどん：

なぜそうなるのか、というヒントを僕からあげます。それはあなたが正直だからだよ。正直だから、すぐ他人に聞く。体裁があつたり、ええカッコしいのところがあつると、聞けないでしょ。でも、ロッキーはすぐ他人に聞くけれど、そのあとその人の意見は採用しないよね。取り入れることもあるだろうけれど、「ああ、そうか」と言いながら、どこかで自分流に思っているところがあるはず。

ロッキー：
その通りです（笑）。

いさどん：
そろそろ気づいてもらいたいのは、ロッキーは他人に聞かなくても、自分の中に答えを持っているんだよ。それを行動することの理由づけが欲しくて他人に聞いているのだけれど、本当は理由づけはいらないんだよ。

ロッキー：
その通りだと思います。当たっているので仕方がないですよ（笑）。どっちにしろ、自分の考えでやっていくのだから、それなら他人に聞かなければいいんですよ。

いさどん：
そこで変なふうに「他人に聞いたのに、その人の考えを採用しないのは申し訳ない」という心はもういらぬわけだ。それは余分な想いだから。どんなにバランスの良い人でも、ねじれていたら意味がない。常に直球で行った方がいい。あなたは元々バランスの良い心を持っているのだから。そのあたりは、結構短期間でマスター出来るから。

大人会議でも、人の心の捉え方を観察していき、自分のケースに当てはまるものをトッピングしていけばいいんだよ。見当違いなことを言う人もいるけれど、それは社会勉強だと思ってプラスアルファとして受け取っていけばいい。こちらからもお願いしたいのは、昨日のように発言してもらいたい。人の意見を取り入れることはプラスになることだからね。それに、ここの人たちにとっても良い刺激になる。ロッキーはケアでここに来たけれど、半分ここの人たちのために役割を果たしてもらっているようなものだね（笑）。

ロッキー：
いやいや、そんなことは。。

いさどん：
あなたがそう思うのはそれでいいけれど、僕はそのくらいのもの観方をしている。自分が成長しながら、皆のためになるということが一番良いからね。

ロッキー：
昨日も夜遅くまでいさおさんに木の花ファミリーのことを色々話していただいて、自分のものの観方が本当に変わっていくのを感じました。

いさどん：
この考え方を理解出来ない人もいるけれど、この世界の仕組みからしたら自然の仕組みで

あって、全然変ではないんだよ。

ロッキー：

良い意味で、日本と離れているというか。

いさどん：

はっはっは。では、どこに近いのかと言えば、僕はこれを「宇宙的」と言うんだよ（笑）。

ロッキー：

そうですね！今までになかった形だとは思いますが。ここと同じようなことをしているコミュニティは他にあるのか、と考えた時に、絶対ないなと思っています。

いさどん：

世界に 15000 のコミュニティがあるそうだけれど、こういうところは少ないと僕も思っている。

ロッキー：

ここのすごいところは、宗教的な一つに対する信仰ではなく、人に対しての考え方ですね。人のことを夜中まで皆で話し合うというのは、本当にないなと思っています。

いさどん：

皆で情報を共有し合うことによって、一人一人が沢山の情報の中から自分が進むべき道を選択していく。これはすごく自由なことで、情報が少ないと、少ない情報の中で生きるしかなくなってしまう。これはすごく不自由な閉鎖された世界だよ。ある人は「これじゃないとダメ」と言って、いかにも自分の意志で判断しているようだけれど、その判断の枠の中に閉じ込められていることに気づいていない。沢山の人が情報を出し合っていくと、沢山のなかから自分の意志を確認し、選べる。これが自由ということ。

ロッキー：

そうですね。毎日皆が学び合って成長しているということですよ。

いさどん：

でもね、ケアで来ていて 1 週間経った面談で、そういう話をしているロッキーもすごいよ（笑）。

いさおちゃん：

昨日僕も夜中の 2 時くらいまで話していて、本当に彼の天性だなと思って、ちょっとびびりました（笑）。自分は一体何年かかって、ここまで来たのだろうと思うと、「参りました！」

という感じです。

いさどん：

新しい世代にはこういう怪物が現れる（笑）。先日お父さんとお母さんがいらっしやった時に、世代の違いについて話したよね。僕らより上の70代、80代の世代、次に僕らの世代、それから、新しい日本を担っていく世代。そして、今の20代、30代のちょっと新しいものを取り入れていく世代は、「問題事が沢山あるから解決していこうよ」という人たち。ロッキーはその次の世代だからね。その世代は何を考えているのかといたら、感覚の世代だよ。

ロッキー：

よくわからないですけど。

いさどん：

それは感覚だから、わからないんだよ。わからないけれど、それでいいんだよ（笑）。

いさおちゃん：

僕たち30代の世代からすると、「話していて何でわかるのかなあ？」と不思議で仕方がない（笑）。彼は、そういうことに今まで触れてきたわけでもないし、そういう家庭環境にいたわけでもないのに。

ロッキー：

両親のことでいさどんに聞きたいのですが、父は結構型にはめるタイプですか？

いさどん：

お父さんは型にはめるというよりも、あなたに対して自分がどういう父親であったらいいのか、ということがよくわからない。だから、お父さんのようなタイプの人、強く発言することによって父親という役割を表現している、というふうに考えてもらった方がいいと思う。そう考えると、お父さんが強く発言しようが、ちょっと違和感があろうが、理解してあげることが出来るよね。

お父さん自身が不安な心を持っている人だからこそ、あなたがその不安を消してあげないといけない。今回のようにあなたの中に病的な傾向が現れてくると、お父さんの中に強い不安が出てきて、思いこみも強くなるからね。子どもとして親を安心させるという意味では、しっかりと筋道の通った話をしてあげることが大切になる。

お母さんは逆に理論派だから、あなたに色々と押しつけてくるだろうけれど、「それはお母さんの心の形だから」というくらいに捉えられればいいよね。

ロッキー：

どちらかと言うと母に接することが今まで多かったので、母の影響の方が強いと思っています。

いさどん：

お母さんの方が、あなたに沢山プレッシャーをかけてくるタイプ。お父さんは、「俺もたまには言わないといけないよな」ということで時々言うだけで、実際はどう接していいのかよくわからないというところだと思う。

一番は、あなたがこれからどう生きていくのかということを見つけ、まわりに心配をさせないことが大切だよ。その上で自分らしく生きる、ということが求められる。引きこもりの人が「引きこもるのは俺の勝手だ」と言うのは、それはそれでいいけれど、「それなら、人に迷惑をかけないように引きこもろうよ。自己責任の中で引きこもろうよ」ということになる、引きこもることはまわりに迷惑をかけることが多いからね。まわりに不安をもたらすことは卒業したいよね。あなたのご両親もそのことを心配しているんだよ。

ロッキー：

そうですね。今、ニートとかが流行っていますからね。そういうふうに僕もなるんじゃないか、と親は心配しているのだと思います。親にも不安がすごくあるらしくて。

いさどん：

そうそう。お母さんも考え過ぎて取り越し苦労をしているのかもしれないし、お父さんは元々不安の心が強いタイプだから、特にそう考えてしまうよね。そうになると、「困るから先に手を打ちたい」くらいに考えているんだよ。だから、あなたが「僕はそういうタイプじゃなくて、単なる我が道を行く人だから。芽が出る時には芽が出るから、長い目で見てあげてよ」と自分のことを言うくらいになればいいんだよ（笑）。

ロッキー：

そうですね（笑）。そうなれたらいいですね。

いさどん：

今度の面談の時にもその話はするけれど、ご両親はなかなかそれが信じられないんだよね。

ロッキー：

この間も親は、いさどんの話を聞いて戸惑ってましたよね。「そんなに自分の考えに固執していたのかな」って。

いさどん：

「そうだよ！」って言ってあげれば良かったのに（笑）。

ロッキー：

「やっぱり親は変わらないのかな」と思ってしまいました。でも、とにかく自分が変わることが一番の目標なので。

いさどん：

今回、あなたはあなたの問題を解決するためにここに来ました。でも、これはあなたの問題を解決するだけではなくて、お父さんやお母さんの不安な気持ちも解消出来る。あなたが本来のバランスの良い姿になるということは、お父さんやお母さんにとっても勉強になるからね。それは、卒業までに色々教えてあげるから、マスターしていけるといいね。

ロッキー：

理想を言ったら、どんな困難にも立ち向かえる男になりたいんです。

いさどん：

「どんな困難にも立ち向かえる」と言うと、体育会系みたいだよ。それこそサッカーで、「脱水症状になってでもやれ！」みたいなものだよ（笑）。それはあまり賢くない。「どんな困難も冷静に判断して、これはこういうふうに対処すればいいんだ」と少しのエネルギーで有効な方法を選んでいくことが出来ればいいよね。

ロッキー：

少ない体力で困難をやり過ごすということですよ。そういうふうになりたいですね。

いさどん：

サッカーで言うと、相手の力を利用してファウルを取るとか、相手の力を利用してオウンゴールするとか（笑）。

ロッキー：

結構難しいですね（笑）。

いさどん：

サッカーでそういう世界は難しいけれど、心の世界では意外と出来るんだよ。

ロッキー：

自分で言うのも何ですけど、昔はまわりに関係なく、自分の気持ちを押し通せる子でした。

いさどん：

それで、まわりともちゃんと人間関係をやれていて、爽やかな存在だったはずだよ。それが今違ってしまったというのは、「そのことの意味をわかるために、違う期間があった」と捉えてもいいと僕は思う。「それを本当によく理解出来るために、病気にもなった」と捉えれば、つじつまは結構合うよね。

ロッキー：

こういうことでもなければ、自分の心を見つめ直すということはなかなか出来ないことだったと思うんです。このままストレートに大学に行っていたら、自分の癖のままに生きて、自分の癖が本当の自分になっていたかもしれないし。

いさどん：

それはあり得るね。大人になってからだと、結構癖が取りにくかったりする。

ロッキー：

いざ社会に出て、問題が起きてもそれに直面出来ず、また逃げてしまう自分がいたかもしれない。

いさどん：

でも、そうでないあなたが中にいるのだから、そのことによって自分を結構責めるんだよね。それは不健康だからやめておいた方がいい。それが変化球であったり、心のねじれだから。やはりストレートにいかないよね。

とりあえず、途中経過だから、ケア期間をエンジョイして（笑）、勉強して、自分で自分に情報提供出来るくらいになれるのだから、やっていって下さい。次にご両親がいらっしゃる時にはびっくりするよ（笑）。